

## 味方

三年 渡邊友彩

私にはとても大切な家族がいる。両親や兄ももちろんだが、その中で特に私の心を支えてくれるのが、家で飼っているマルプーの女の子だ。マルプーとはマルチーズとトイプードルのミックスで、名前はランという。アプリコットのふわふわな毛と黒くて真ん丸な目がとても可愛くて、ペットショップで初めて見た瞬間、家族になりたいなと思った。

私は中学二年生の冬から病気になり、生活が大きく変わった。検査も多く、前とは比べ物にならないほど、病院に行く回数が増えた。薬もどんどん追加され、毎日が悲鳴を上げていた。学校も思うように通えなくなり、クラブチームの練習にも出られず、やりたいことができないう日々が続いた。そして、だんだん自分の生きる意味が分からなくなった。

何回も何回も、様々な理由で生きるのがつらくなった。人とかかわりや自分自身にもすべてに嫌気が差し、家族のことでさえも、どうでもいいと思った。でも、心が保てなくなりそうになるとき、必ず頭に思い浮かぶのが、ランの顔だった。ランは、私が涙をこぼした時、誰よりも先に駆け寄り涙をなめてくれる。その瞬間、「大丈夫だよ」と言われたような気がして、ますます涙が止まらなくなった。ラ

ンは、言葉は通じなくても私を理解してくれている。ランが、いつも私の生きる希望や意味をくれる。病院で長時間の検査を受けたり、退院したりした時も、ランがしつぽを振って出迎えてくれるだけで、疲れ切った体も少し軽くなる。ランがそばにいてくれるだけで、不思議と呼吸がしやすくなる。病院や薬ではすぐに消えない苦しさも、あの小さなぬくもりが少しずつ和らげてくれる。

病気になってから、私は「支え」というものの大切さを実感した。周りの人からの温かい言葉や、病院で私を助けてくれる機械や医療道具、また、体を守るために欠かせない薬などを提供し、見えないところで支えてくれる人たちには感謝してもきれない。ランは言葉を使えないし、機械や医療道具、薬も作れない。でも、私の心の奥まで届くような力で、そっと寄り添ってくれる。

これからも病気と向き合う日々は続くだろう。泣きたくなくなる日も、生きたくなくなるほどつらい日もあるかもしれない。でも、そのたびに思い出すだろう。私には、世界で一番の味方がいることを。

私にとってランは、ただのペットではない。小さな体で、私の命を何度も救ってくれた、大切な家族だ。これからもずっと一緒に歩いていきたい。